



日銀高知支店は、今月上旬に高知の観光に関するレポートを公表しました。今回は、そのレポートの内容を踏まえつつ、高知の観光について読者とお話

# 地域超えた連携必要

をしましょう。

## ■最近の観光動向

読者 今年「志国高知 幕末維新博」の効果もあって、観光客が増加している印象があります。

支店長 確かに、観光は好調です。秋にかけて台風の影響から一時的に観光客が減少しましたがそれを除けば、今年にはほぼ一貫して宿泊客数や観光施設への入場者数が増加しています。読者 外国人が歩いている姿も頻繁に見るようになっています。

支店長 外国人観光客も、クルーズ船の寄港や個人宿泊客の増加から着実に増えています。ただし、現在は、直近の実績を年率換算すると2850万人の外国人旅行者が来日していますが、高知への来訪者は年間16万人程度ですので、増加しているとは言え、まだまだという印象です。

読者 観光は好調との評価ですが、地域によって差が出ているのではないですか。  
支店長 その通りです。高知

## 観光を巡る現状と課題

県を高知市のある中部とそれ以外の東部、西部の三つに分けると、中部、西部、東部の順となっています。特に東部は浮揚感に乏しいという声聞かれています。

読者 どうしてそのような違いが出ているのですか。

支店長 中部は、高知城や桂浜などの観光名所が集中し、宿泊施設も多いため、高知県への観光客の増加が中部の集客増に直結します。西部は、全国的に有名な四万十川の集客力が高いほか、地域をまたいだバス等の交通網や体験型プログラムの整備などを進めていることが功を奏しています。一方、東部では、

うみていますか。

支店長 今年には土佐の志士たちが活躍した大政奉還150年とびじりこともあって、観光には追い風が吹いていました。来年は明治維新150年であり、鹿児島や山口でも同様の観光イベントが開催されるため、高知の観光への追い風の強さは幾分弱まるとみています。ただし、高知観光の魅力を磨き上げていけば、かなり善戦できるのではないかと思っています。

読者 具体的にどうすれば良いのでしょうか。

支店長 対応は三つあります。第1は、地域を超えた連携による周遊ルートの確立です。

観光施設が点在している中で、地域間の協力が結ばれたばかりであることや、観光客のニーズに十分応えられていないことも、集客力の弱さに影響しています。

読者 最近の観光客のニーズとは何ですか。

支店長 高知に来る観光客の大きな目的は「高知ならではの食」です。また、最近では地方でのアウトドア活動、つまり「体験型観光」に関心が高まっています。これらの取り組みの違いもあって、企業の集客力には

きりりと光る小粒の観光スポットや施設が点在しており、これらをパッケージとして売り出し、効果的にPRしていけば、相應の効果が期待できると思います。

第2は、観光関連のデータの整備と共有です。現在、県は幕末維新博の開催に合わせて、各地域での観光客数や消費額等に関するデータの収集を始めています。そうしたデータを関係者で共有した上で、観光客にお金をいかに使ってもらおうかという観点から戦略を考案することが重要です。

第3は、観光人材の育成です。県内でも、大学が観光分野で活躍できる人材育成を目指して、今年から専門の講座を開設する動きが出ています。

読者 今日はおりがいがありました。

読者 先行きの観光需要をどう

■データの整備や共有を